



# 佐工だより

佐賀県立佐賀工業高等学校 総務部発行 第356号 (2022年4月)



満開の桜。道端の草もいきいきと新鮮な緑を茂らせ、山も笑う春。すべてが春です。この冬は雪が積もることもなく過ぎてゆきました。さて、依然としてコロナ禍が続く中で1年間でしたが、対応にも慣れ、ほとんどの行事は行うことができました。皆さんのこの1年、いかがでしたか？充実していたと思える人は幸いです。なんとなく過ごしてしまったと思う人も、自分では気づかぬところで成長し1年前とは違うはずですよ。

## 第74回卒業証書授与式



卒業証書授与

3月1日(火)は第74回卒業証書授与式が挙行されました。前日までずっと晴天続きでしたが、なぜかこの日だけは朝から生憎の雨模様。時折、体育館の屋根を打つ雨音が大きく響く中、厳粛に式が進められました。各クラスの代表者へ卒業証書が授与された後、式辞で野田亮校長先生は「ものづくりは人々の生活を変え、社会全体が抱える課題、地球が直面する危機を解決する力を持っています。未来の人々の生活はあなた方の肩にかかっています。ものづくりをと

おして人を幸せにする工業技術者となってほしい。人を幸せにすることがあなたの人生を充実した豊かなものにします。」と述べられました。

ご来賓からは教育後援会会長古賀隆氏よりご祝辞をいただきました。25年前のこの日に本校を卒業なさった古賀氏は、「佐賀工業で学んだ技能と専門知識、取得した資格や免許は、これからの将来を後押ししてくれるとともに、社会を豊かにする礎になっていきます。厳しい場面に直面しても、校訓の『至誠剛健』をモットーに、負けずに明るく前向きに成長し続けてください。どうしても乗り越えられない困難に遭遇したら、家族や先生、仲間に頼ることも忘れないでください。」とエールを送っていただきました。

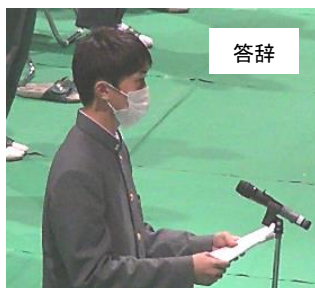


送辞

続いての送辞では、全在校生を代表してただ一人式に参列した生徒会副会長 宮本真衣さん(電子科2年)が「先輩方が熱い思いで築いてこられた、この佐賀工業高校の伝統を受け継ぎ、さらに発展させていく覚悟です。」と述べました。それを受けての答辞では、森魁威人さん(建築科)が「至誠剛健の校訓の下、私たちは仲間とともに、強い絆、積極性、誰かのために優れたものを作る姿勢や技術を身に付けることができました。今後はそれらを活かし、それぞれの場所で自分の道を歩みます。」と力強く決意を述べました。式中、断続的に降り続いていた強い雨は、式が終わるころにはようやく小降りに。空からは雨が降ろうとも、卒業生諸君の顔は実に晴れやかでした。



教育後援会会長古賀隆氏



答辞

式辞で野田亮校長先生は「ものづくりは人々の生活を変え、社会全体が抱える課題、地球が直面する危機を解決する力を持っています。未来の人々の生活はあなた方の肩にかかっています。ものづくりをと

## ご退職の先生方

この3月で地歴公民科の廣重円先生、機械科の野田佳哉先生、電気科の市丸正明先生が、学校での職業生活を終え、定年をお迎えになります。長い間大変お疲れ様でした。お世話になりました。

### 地歴公民科 廣重円先生



38年前、世界史が好きな大学生は、高校の先生になりたいと思いました。2年間勉強をして念願の世界史の先生となり、様々な校種の学校に勤務しました。それぞれの高校で世界史の面白さを伝え、生徒たちと一緒に過ごしました。最後の3年間は佐賀工業高校に勤務し、みなさんの明るさ、素直さに元気づけられ、専門の勉強に打ち込む姿に感動しました。これまでの教員生活を振り返ったとき、人との出会いが宝物です。生徒から教えてもらったこと、卒業後は仕事や子育てについて話せることなど、高校生との出会いは一生のつながり。先生方とは、ともに考え、協力し合い、たくさん助けてもらいました。感謝しかありません。佐賀工業高校のみなさん、これからいろいろな出会いがありますよ。ドキドキ、ワクワクを忘れないでください。

### 機械科 野田佳哉先生



教師として38年間の奉職でした。鳥栖をスタートとし、唐津、塩田、多久と県内の工業高校に勤務し、最後は佐賀工業高校での勤務という僥倖に恵まれました。本校の偉大さを感じる6年間で、特に最後の4年間は進路指導で仕事をさせていただき、企業の方との関わりの中で本校の歴史と伝統の凄さを感じました。本校で定年退職できることに感謝しております。まだまだコロナ禍の影響はありますが、生徒諸君は本校で学ぶことに自信と誇りを持ち、将来の夢に向かって頑張り佐賀工業高校の新たな歴史と伝統を積み上げてください。



### 電気科 市丸正明先生



教職員となって34年が経過し、この度定年を迎えました。現在は、新型コロナウイルスの影響で、働く方法や環境が激変し、その変化に柔軟に対応せざるを得ません。そして、どんな環境になろうとも若い人たちは、「大志」をもって、どんな壁が立ちふさがろうとも乗り越えて、豊かな社会を取り戻してもらいたいと思います。幸い佐賀工業高校には多くの卒業生がいます。多くの知識や行動を共有し、乗り越えていける環境があると思います。是非、今の負の環境を知恵と努力と結束で正の環境に変え、後世に続く道を切り開いてください。応援しています。卒業生や在校生の今後の活躍を祈っています。

## 進路ガイダンス

キャリア教育の一環として、3月18日（金）には、県内企業28社と大学4校、専門学校4校をお招きして、1・2年生とその保護者を対象に進路ガイダンスが行われました。1時間目に今年度の進路状況と進路選択の取り組みについての講話、具体的な企業についての説明を聞いた後、就職コースと進学コースに分かれて講座を受講しました。就職希望者は各教室で6社の企業の話聞き、進学希望者は大学・専門学校のうち希望するいずれかの模擬授業を受け、その後の相談会では個別に質問したり、説明を受けたりしました。2年生はいよいよ真剣に考える時が来ました。この機会に得たことをぜひ今後役に立ててください。



## 吉田絃二郎展

皆さんは「吉田絃二郎」をご存じですか？聞いたことがあるような、ないような…。本校の校歌の作詞者です。この吉田絃二郎についての展示が1月下旬から約1ヶ月、本校図書館で行われました。

神埼市の西郷小学校の3年生が総合的な学習の時間で地域の偉人を調べることになり、ある班が描いたのがこの肖像画。なんとも味のある、いい絵に仕上がりました。「ぜひとも吉田先生のことを母校である佐賀工業高校の皆さんに知ってもらいたい」と展示の打診があり、このたびの校内吉田絃二郎展が実現しました。

吉田絃二郎は佐賀工業高校金工科（現機械科）出身です。その後早稲田大学の文学部英文科に学び、大学卒業後は同大学で教鞭を執りました。そして48歳のときに、作家活動に専念すべく退職し、69歳で亡くなるまでに200冊を優に超える著作を残しました。「普段は意識しないかもしれないが、佐工出身の、多くの小説を残した偉大な先輩を知る良い機会となりました」と、窓口となった江原一興先生は話しておられましたが、佐工の先輩にこのような小説家がいたとは驚きです。



展示の様様。実は吉田絃二郎の著書の蔵書がこんなにたくさんあります。

## インターンシップ②（2年E・M・C科）

2月号に引き続き、2学期末考査後の12月6日から8日までの3日間、2年生を対象に行われたインターンシップの感想を紹介します。

◆扉のパッキン張りをしました。初めてやる作業で、簡単そうに見えたものの、いざやってみるととても難しく、2回もやり直しました。(E 今泉瑛翔さん) ◆一番印象に残ったのは皆さんの優しさです。とても忙しく難しい作業をしているときでも優しく対応してくださり、丁寧に教えてくださいました。こんな職場で働きたいなと思いました。(E 江口幸佑さん) ◆現場ではとにかく安全への配慮がされていた。特に安全帯の着用は、朝礼の時も昼礼の時も何度も繰り返し言われていて印象に残っている。(E 岡村優さん) ◆先輩方からの話で、1年目は聞くことが仕事、報連相が大切だと学びました。また、雑相（雑談・相談）をすることで、新しいアイデアが出てくるので、コミュニケーションをとることが必要だと思いました。(E 梶原謙太さん) ◆朝から夕方まで一日働くことの大変さがわかりました。職場の雰囲気が明るく、親しみやすい方達がいて、楽しく安心して取り組めたので、職場選びのいい経験になりました。(E 川浪優弥さん) ◆電験三種、第3種電気主任技術者の免許を持っていないと話にならないのでハードルの高さを感じた。勉強を頑張らないといけないという気持ちになった。いつも笑顔な人が多かったので、常にしゃべりやすい顔や立ち振る舞いを心がけることを学んだ。(E 久保賀亮さん) ◆配電線自動制御システムは、最初に見たときはどう役に立つのかわからなかったけれど、配電事故の時に、配電線による自動融通を行う所を見学して、自分

たちの家が停電した時にすぐ電気が復旧する背景には、このようなシステムを用いて復旧作業をされているということを知り、とても感銘を受けました。(E 坂本愛翔さん) ◆人と同じ仕事をしていても、何のために働いているのかを考えるだけで、働き方は違うという話はとても勉強になりました。(E 西大貴さん) ■自分は部活をしていて、1日働くことは余裕だと思っていました。しかし、1日働いてみると想像を遥かに超えてキツくて体が痛かったです。(M 江頭悠真さん) ■自分の実習みたいにいっまでもしゃべっておらず、私語は全然無くて、これが大人の仕事かと思いました。(M 大仁田流磨さん) ■ティグ溶接を初めてしましたが、ほかの溶接とではできのきれいさが違って見えました。いろいろな溶接を体験できて嬉しかったです。(M 中島三稀さん) ◆ミーティングにも参加させてもらったが、ぜんぜんわからなかった。あれがわかる日が来るとよかったです。(C 野田愛貴さん) ◆日頃は同級生ばかりですが、仕事だと目上の人ばかりで気持ち的にきつかったです。話しかけてくださる人がいて、コミュニケーションの大切さに気づくことができました。また細かいことでも一つ一つに意味があることを教えてもらいました。仕事中は誰一人話してなくてさすがと思いました。(C 香田晃助さん) ◆エアコンの点検に行きました。点検ではどこがおかしいのかをすぐに見つけて、わからないところがあっても周りの人にすぐに聞くのではなく、自分で解決に向かわないといけ



ないと思いました。(C 古賀愛翔さん) ◆いろんな人たちの話を聞く中で、「高校時代に頑張っておいたほうがいいことは資格取得」と話される方が多く、自分も今以上に頑張らなきゃなという気持ちになりました。(C 富樫響さん) ◆初日はとても緊張していて、ちゃんとできるかなどいろいろ考えてしまい、頭がいっぱいだったけれど、社員さんたち全員がとても雰囲気良くて、楽しそうに仕事をしてい

て、いっぱい話しかけてくださったので、どんどん緊張が解けていきました。(C 永渕廉也さん) ◆一番学んだことはコミュニケーションをどのようにしてとられていたかということです。どんどん自分の意見を言い、そして表情も笑顔で話されている姿を見て、とても勉強になりました。(C 八谷海星さん)

## 表彰

M：機械科 K：機械システム科 E：電気科 C：電子科 I：情報システム科 A：建築科

- ◆教育長表彰  
ラグビーフットボール部  
柔道部 大坪 奨武 (M2・三日月中)
- ◆令和3年度第2回佐賀県女子溶接技術競技会  
準優勝 高森 あゆみ (M1・川副中)  
敢闘賞 中島 三稀 (M2・三瀬中)
- ◆スポーツ優秀賞  
柔道競技男子個人66kg級 大坪 奨武
- ◆JOCジュニアオリンピックカップ  
第14回全日本ジュニアテコンドー選手権大会  
高校生女子 46kg 1位 岡本 留佳 (A1・城西中)
- ◆第9回九州高等学校選抜女子セブンズラグビーフットボール大会 優勝
- ◆第15回 全日本テコンドー選手権大会  
女子 46kg 1位 岡本 留佳
- ◆令和3年度 佐賀県高等学校新人体育大会バレーボール競技 3位
- ◆学校表彰 3R運動推進 佐賀工業高等学校

## 4 月 行 事 予 定

日	曜	行事予定	日	曜	行事予定
1	金		17	日	
2	土		18	月	
3	日		19	火	北山研修(1年)
4	月		20	水	
5	火		21	木	↓
6	水	新任式 始業式	22	金	心臓検診(1年)
7	木	課題テスト(専門) 自転車点検 服装頭髪検査 大掃除	23	土	
8	金	入学式	24	日	
9	土		25	月	
10	日		26	火	
11	月	対面式 表彰 課題テスト(国数英)	27	水	検尿1次(全学年)
12	火	部活動紹介(1年) 身体測定	28	木	
13	水		29	金	昭和の日
14	木		30	土	
15	金		31	日	
16	土				

### 佐賀県立佐賀工業高等学校

所在地 〒840-0841 佐賀市緑小路1-1

TEL 0952-24-4356

FAX 0952-25-7043

(ホームページ)

<https://www.education.saga.jp/hp/sagakougyoukoukou/>

**編集後記** 私が生徒だった頃、卒業式の日好きな先輩から学生服のボタンをもらうのが流行していました。第2ボタンが最高の価値を持ちます。人気の先輩はボタンが1つも残りません。2年生の時、下駄箱のところによく知った先輩に会いました。別にボタンをほしいなんて言っていないのに、何を勘違いしたか、先輩はボタンをむしり取り、「はい」と渡してくれたのです。断るほどでもないのに記念にもらい、しまっていました。今どこにあるかわかりませんが、心の中にはまだちゃんとあります。 K